

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ



令和4年7月発行
西部教育事務所

国語科授業づくり講座は、今年度も宿毛市立宿毛小学校を会場校に、「書くこと」の授業づくりについて研究しました。
教材研究会：5月19日(木)
授業研究会：6月29日(水)

学 年：第6学年
単 元 名：委員会ポスターを作ろう
教 材 名：「防災ポスターを作ろう」(東京書籍六)
言語活動：自分が所属する委員会で困っていることやお知らせしたいことを宿毛小の人たちに伝えられるように、資料を用いてポスターにまとめる活動

授業者 6年A組担任 加藤 大輔 教諭



西部管内の講座関係HP

育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿の明確化

児童に「育成を目指す資質・能力が身に付く」、それが授業のゴールです。そのゴールの姿の実現に向かって大切になってくるのが、学習評価です。学習評価は、「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするものです。児童の学習の成果を的確に捉えるためには、育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿を明確にすることが大切です。育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿が具体的であれば、どのように書いていけば「おおむね満足できる」状況であり、何が足りないから「努力を要する」状況だと評価することができます。さらにどのような指導(めあて、発問、板書等)が効果的であったのか、何をどのように改善すれば児童に育成を目指す資質・能力を身に付けさせることができたのか、教師の指導改善、児童の学習改善につなげることができます。教材の特徴や児童の実態を踏まえ、この教材であれば、育成を目指す資質・能力を身に付けた児童の表現はどのようになるのか、吟味・検討していくことが教師の指導力の向上につながり、児童の学力の向上につながります。

学習評価の充実

①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

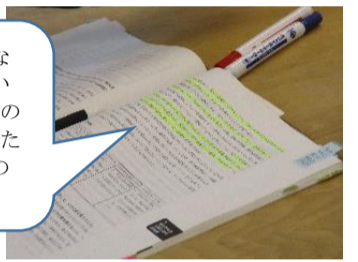
育成を目指す資質・能力が身に付いた具体的な児童の姿 **評価** →

②教師の指導改善につながるものにしていくこと

育成を目指す資質・能力が身に付いた具体的な児童の姿 **評価** →

③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

育成を目指す資質・能力がどんな力なのか、マーカーでラインを引いて確認しています。「能力ベース」の「ベース」は「出発点」。こういったことが、能力ベースの授業づくりの第一歩です。



【本時の目標】

見出しや図表を工夫し、自分たちの伝えたいことを効果的に表現することができる。

【評価規準】B(1)エ

「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【B概ね満足できる状況】

- ・読み手の興味を引く書き表し方を工夫し、テーマに沿った見出しを考えている。
- ・引用、図や表、グラフを用いて、必要な資料との関連が分かるように文章を書いている。
- ・困っていることと解決策が、課題にあったデータと共に図や表なども使いながら記述できている。

《指導の工夫①》

導入で前時までに学んだ表現の工夫を明示的に確認し、そのことを踏まえ、本時で自分自身はどんなところに着目して考えればよいか、焦点化させるために自己のめあてを設定させたことで、児童一人一人が個別に学習のゴールを意識して主体的に学び進めるなど、個別最適な学びにつながっていました。

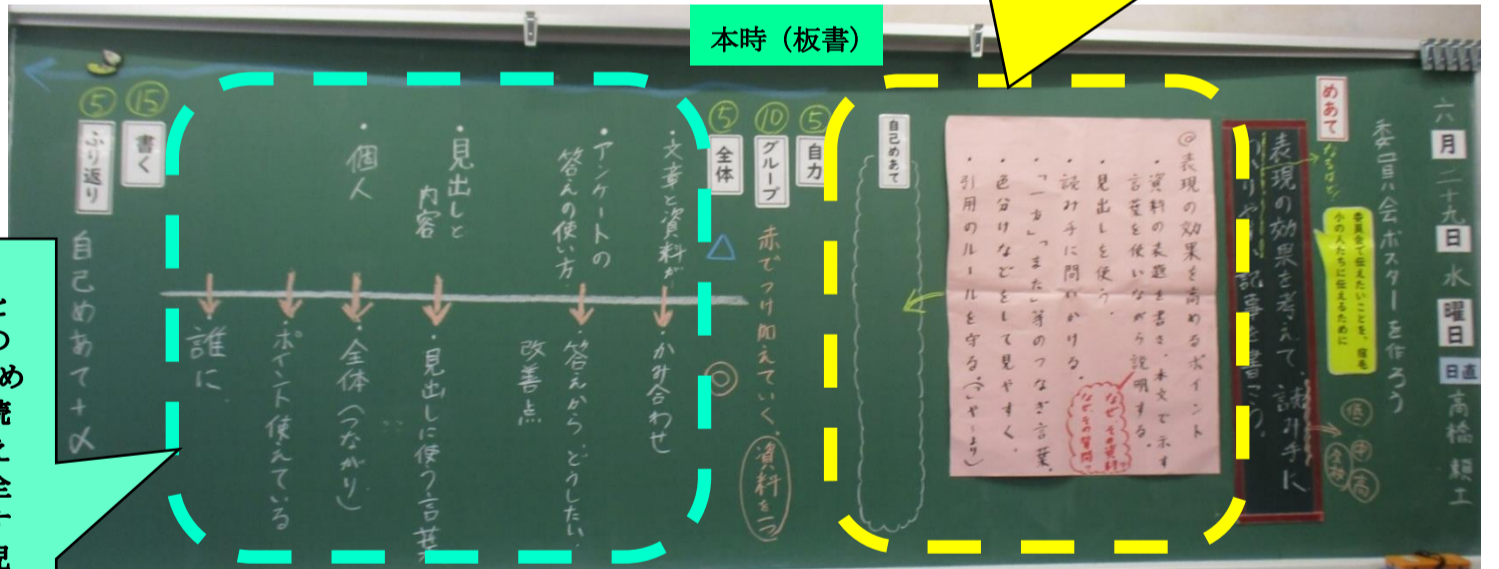


なぜ、アンケートをとったの？

《指導の工夫②》

中間検証で「なぜ、アンケートをとったのか」「なぜ、その質問をしたのか」などを児童に問いかけ、何のためにこのポスターを作っているのか、読み手にどう思ってもらいたいのか考えさせるなど「表現の効果」について全体で共有を図られていました。そうすることで、資料のみに着目していた児童への手立てとなっていました。

本時(板書)



ICTの効果的な活用



自分が伝えたいことの根拠となる情報を得るために、アンケートを作成し、その結果を可視化(円グラフ)させ、活用していました。



「オールキャスト」で「能力ベース」の授業づくり

今回の「書くこと」における6年生の姿は、5年生の時に経験した言語活動を通して身に付けた資質・能力に支えられており、その5年生は、1～4年生の時に経験した言語活動を通して身に付けた資質・能力に支えられています。これは、他の領域でも同じことが言えます。児童に関わるすべての先生方が行った指導と評価が、6年生で育成を目指す資質・能力を身に付けるためには必要不可欠です。それぞれの学年で、それぞれの学習過程に位置付けられた資質・能力が身に付いたかを、的確に捉える学習評価の充実を図ることが大切になると思います。それぞれの学年で育成を目指す資質・能力を身に付けさせるために、すべての先生方が学習指導要領を開き、育成を目指す資質・能力を明確にするところから行動統一を図っていきましょう。

参会者の感想(授業研究会)

- ・資質・能力を身に付けた児童の姿から、単元や単位時間の学びを考えていきたい。
- ・参会者へ評価規準を明確にしたことで、協議がスムーズに進んだ。
- ・問い→児童のズレ(本当にこれでいいのかななどの思考)を大切に扱っていきたい。
- ・課題解決に向けて、ゴールを設定した際、何に着目させるのかを明確にしていくことを大切にしたい。
- ・小学校での既習事項をしっかりおさえて、中学校で指導していきたい。
- ・研究協議の方法を持ち帰り、児童の姿を見取ってその要因を探るといった点で共有したい。

【解説国語編P143】(中略)なお、用いる図表やグラフは、本や文章から引用する場合のほか、自分で作成する場合もある。

教材研究会

授業研究会